

ARIBの動き

電波の日・情報通信月間 記念中央式典で表彰される

平成16年度電波の日・情報通信月間記念中央式典が6月1日帝国ホテルにおいて開催され、今年3月まで活動していた当会のデジタル受信機開発部会が「電波の日」総務大臣表彰として団体表彰されました。

当日は、今井委員長が開発部会を代表して麻生総務大臣から表彰状を授与されました。

この表彰は、デジタル放送用受信機の製造に必要な民間標準規格の開発や標準化を行い、地上・衛星共用デジタル受信機の早期実現に寄与するなど、デジタル放送の推進に多大な貢献をした活動が評価されたものです。

デジタル受信機開発部会は本年3月末を持って活動を終了し、その活動をデジタル放送システム開発部会に引継ぎましたが、6年半の間、延べ70社、273名の総務省、事務局の方々の力を結集して得られた成果が認められました。

各位におかれましては、引続き当活動へのご参画、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



麻生総務大臣と表彰状

周波数資源開発シンポジウム2004開催される

去る6月4日、独立行政法人情報通信研究機構(NICT)及び当会の主催による

「周波数資源開発シンポジウム2004」が明治記念館(港区元赤坂)において開催されました。

本シンポジウムは、近年、社会の情報化の進展により電波利用が多様化するなかで、周波数帯の効率的利用のために周波数資源開発を推進する事を目的として開催しております。

独立行政法人情報通信研究機構の塩見理事が開会の挨拶を行い、来賓を代表して総務省の竹田総合通信基盤局電波部長からご挨拶をいただいた後、先端の研究及び開発に携わってこられた内外4名の方から、「これからの無線通信を考える」というテーマで、第3世代及び次世代の携帯電話、新たな無線通信として注目されつつあるピアツーピア通信、コグニティブラジオ、ミリ波を用いたパーソナル通信システムなど、周波数の有効利用を図り、より高度かつ多様な無線通信サービスの実現に資する事を可能とする先端的な技術についてご講演をいただきました。当日は梅雨の走りを感じさせない好天に恵まれ、定員の250名を超えるご来場があり、満席の会場で熱心に聴講されていきました。



シンポジウム2004会場の様子と
総務省 竹田総合通信基盤局電波部長のご挨拶

講演 1 : 中国における3G及びBeyond 3Gの研究開発動向

Tsinghua University(清華大学),China

Prof. Jing Wang(王京)

講演 2 : モバイルネットワーク上でのピアツーピアアプリケーション

Centre for Telecommunications Research,King's College London, UK

Dr. Hamid Aghvami

講演 3 : 将来の適応的、自己構築ワイヤレスネットワークを構成するためのコグニティブラジオ

WINLAB, Rutgers The State University of New Jersey, USA

Prof. Dipankar Raychaudhuri

講演4： ミリ波パーソナル通信システムの標準化動向
情報通信研究機構横須賀無線通信研究センター
研究センター主管 小川博世氏

電気通信／放送
行政の動き

第3世代移動通信システム(IMT-2000)の高度化方策
(情報通信審議会からの一部答申)

総務省は平成16年5月24日、情報通信審議会(会長:秋山 喜久 関西電力株式会社 会長)から諮問第81号「携帯電話等の周波数有効利用方策」のうち「第3世代移動通信システム(IMT-2000)の高度化方策」について、一部答申を受けました。その概要は以下のとおりです。

1 審議の背景

第3世代移動通信システム(IMT-2000)については、平成13年10月にW-CDMA方式が、平成14年4月にCDMA2000方式がそれぞれ導入され、既に加
入者数は1770万(平成16年4月末)を超えて、第2世代から第3世代への移行が
進みつつあります。一方、近年のインターネットの普及による高速のデー
タ通信ニーズに対処するため、CDMA2000方式については、最大2.4Mbps程
度の高速データ伝送が可能なCDMA2000 1x EV-DO方式が実現されてお
り、W-CDMA方式についても最大14Mbps程度の高速データ伝送が可能
なHSDPA(High-Speed Downlink Packet Access)技術の導入が求められている
ところ です。

また、これまで主として第2世代の移動通信システムに用いられてき
た800MHz帯について、平成15年6月25日の情報通信審議会一部答申
「800MHz帯における移動業務用周波数の有効利用のための技術的条件」を
受け第3世代移動通信システムの円滑な導入等に資するよう、今後周波数の
再編成を進めることとしています。

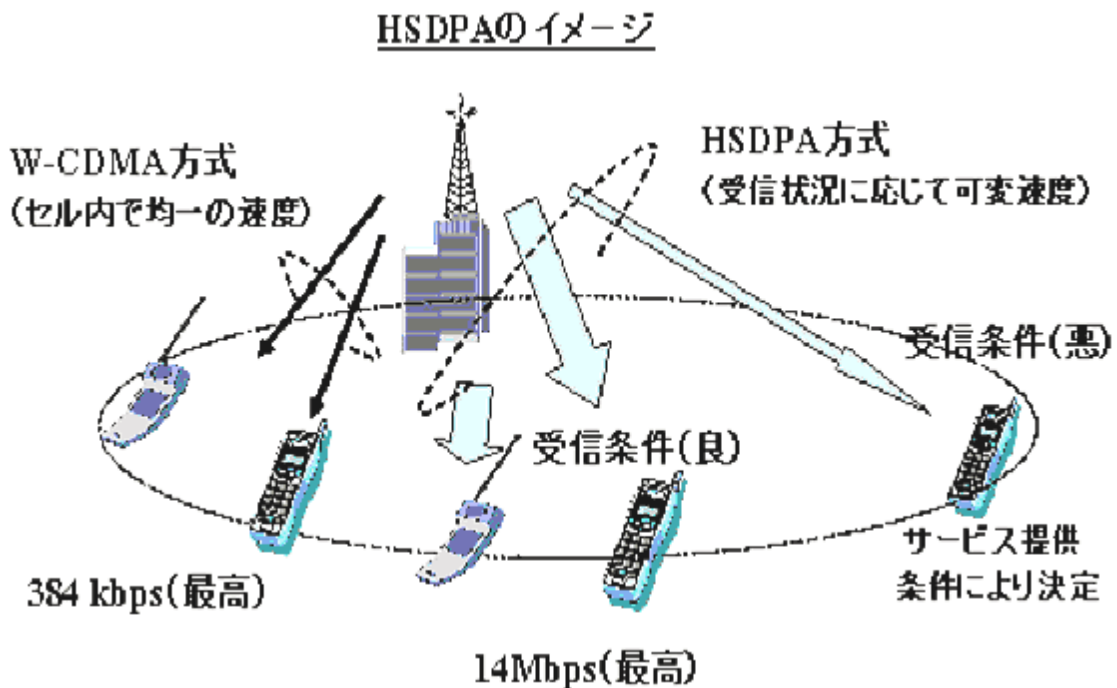
このような状況を受け、平成15年10月から情報通信審議会において「第3世
代移動通信システム(IMT-2000)の高度化方策」について審議をいただ
き、5月24日にHSDPA技術の導入及び800MHz帯におけるW-CDMA方式の導
入のための技術的条件について一部答申を受けたものです。

2 一部答申の概要

(1) HSDPA技術の導入のための技術的条件

現行W-CDMA方式の技術的条件について、次のとおり変更することが適
当とされました。

- ・ 変調方式： データ変調方式に16QAM方式を追加（現行:BPSK方式、QPSK方式）
- ・ 伝送速度： 上りで最高2Mbps程度、下りで最高14Mbps程度（現行:最高2Mbps程度）



(2) 800MHz帯におけるW-CDMA方式の導入のための技術的条件

現行W-CDMA方式の技術的条件について、次のとおり変更することが適当とされました。

- ・ 無線周波数帯:国際的にIMT-2000用周波数として分配された800MHz帯を追加
- ・ 送受信周波数間隔:上り回線用周波数に45MHzを加えた周波数を下り回線用に使用する事を追加（現行:2GHz帯で190MHz）
- ・ 移動局の周波数の許容偏差:下り回線用周波数より45MHz低い周波数に対して、 $\pm(0.1\text{ppm}+10\text{Hz})$ 以下である事を追加（現行:2GHz帯で190MHz低い周波数に対して同じ許容偏差）

(3) その他

「800MHz帯における移動業務用周波数の有効利用のための技術的条件」に関する一部答申(平成15年6月)において、再編後の周波数配置の全体像として、移動局送信周波数を基地局送信周波数より低い周波数とし、送受信周波数間隔を45MHzとすることとされているため、今後、CDMA2000方式についても同様の条件を定めることが適当とされました。

3 今後の予定

総務省は、本一部答申の内容を踏まえ、無線設備規則等の規定の整備を行う予定です。

詳細については、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/040524_1.html>を参照して下さい。

連絡先： 総合通信基盤局電波部移動通信課

担当： 松井課長補佐、田中第二技術係長

連絡先：(直通) 03-5253-5896

(代表) 03-5253-5111

FAX 03-5253-5946

編集後記

去る5月28日から29日にARIB親睦旅行会で軽井沢に行きました。

初日の宴会で、デジカメで参加者を撮っていたのですが、この5月にOBとなった元編集子のECHO氏から、「ARIBを去る記念に、女性と一緒に写真を撮ってほしい」とせがまれ、女性たちに声をかけまくるECHO氏を撮ることになりました。その後、ARIB幹部と一緒に撮ってほしいと追加要請があり、精力的に幹部の隣でポーズをとるECHO氏に二次会までつききりになり、デジカメのメモリーを初日でほとんど使い切ってしまいました。

しかし、ECHO氏の笑顔は本当に魅力的で、デジカメのデータをあとで進呈しますと伝えたときの心底うれしそうな笑顔も印象的でした。ECHOさん、今後よろしくお願いいたします。

この4月から編集子に加わりました。よろしくお願いいたします。

(編集子：PAO)

[ページの先頭に戻る](#) ▲